



水・緑・空 笑顔かがやく ふれあいのまち

YOSANO

広報 よさの

No.67



●主な記事

- 02 特集「農業」②
自然循環農業「京の豆っこ米」

- 06 町政懇談会 Q & A

●今月の表紙

どろんこバレー ボール大会 (8月7日撮影)

2011

9

知つてほしい かるさとの味

与謝野町だけのおいしいお米！

「京の豆っこ米」

前回の特集では「知つていますか？わがまちの農業」と題し、与謝野町にどつての農業、そしてそのさまざまな取り組みについて特集し、環境にやさしい農業を基本方針とした特色のある取り組みとして自然循環農業に特に力を入れて取り組んでいることを紹介しました。

与謝野町の自然循環農業は100%天然素材からつくられた有機質肥料「京の豆っこ」を使用して生産されるコシヒカリ「京の豆っこ米」と大豆の生産が中心となっています。

シリーズ農業第2回の今回から、2回にわたり与謝野町の自然循環農業について特集します。今回は、その根幹である有機質肥料「京の豆っこ」、そしてそれによって生産される「京の豆っこ米」について詳しく取り上げます。



与謝野町流「自然循環農業」



入当初は機械のトラブルのたびに遠方から技術者を呼んでメンテナンスを行うなど多くの苦労が絶えませんでした。

安定した生産を確立した現在では、(株)京都丹後加悦豆房などから運ばれたおから、丹後・但馬地域の複数の米業者から仕入れた米ぬか、伊根の漁協や、舞鶴、豊岡の海産物加工業者などからの魚のあらを原料に、年間300tほどが製造されています。そのほどんどが豆っこ米を中心とし、与謝野町内で使用されています。食の安全への意識の高まりから、町外からも豆っこ肥料を購入したいという問い合わせが多くなっていますが、製造が追いつかないで断ることもあるほど好評です。

豆っこ米が生産開始！

平成13年に豆っこ肥料の生産が始まると同時に、水稲や施設園芸への実証実験も開始したこと



上／与謝野町有機肥料供給施設
豆っこ発酵機
左下／発酵處理機の内部

くにまちの農地の大部分を占める水稻への使用を推進しました。この実証実験は、町を中心として、京都府、府丹後農業改良普及センター、JA京都府で構成される農業技術者会が主体となり実証実験を行った試行錯誤の末、豆っこ肥料を使用しての米の生産にこぎつけました。

こうして生まれた「京の豆っこ米」は、自然循環農業の中心として重要な位置を占めるだけでなく、有機質肥料である豆っこ肥料を使用し化学生肥や農薬の使用をできるだけ抑えて生産された安心・安全で良食味を追求したお米です。

また、水がきれいで、寒暖の差が大きく、肥沃な土地が広がる与謝野町は、古くからの米の名産地であり、

与謝野町だけで生産され、おいしいお米として全国的に高い評価を受けている「京の豆っこ米」をご存知ですか？ 知つているけど食べたことはないという方も少なくないかもしれません。

「京の豆っこ米」（豆っこ米）は有機質肥料「京の豆っこ」を使用して生産される環境にやさしいお米です。その生産に欠かせない「京の豆っこ」をあわせて紹介します。

100%有機質肥料！

与謝野町の自然循環農業は有機質肥料「京の豆っこ」（豆っこ肥料）の生産から始まりました。有機物を大地へ還元することが基本となっていきます。

環境にやさしい農業を目指すなか、平成12年に豆腐工場が誘致されたのをきっかけに、産業廃棄物のおからを処分したい工場と、有機質肥料の原料を求めていた町の思惑が一致するかたちで、おから、魚あら、米ぬかを原料とした豆っこ肥料の製造が、平成13年に開始されました。

豆っこ肥料は、与謝野町有機物供給施設（加悦奥）で製造しています。この施設では、攪拌、発酵、乾燥、袋詰めなどの作業を行っており、攪拌から乾燥までを行う発酵處理機は、全国的にめずらしく導入

まちの資源を有效地に活用して開発された豆っこ肥料で育った豆っこ米はおいしいお米となっています。

平成15年には「京の豆っこ米生産振興大会」が開催され、JA京都部にて「京の豆っこ米生産部会」が設立されました。生産部会はJAの基盤を満たした豆っこ米を出荷する農家で組織され、豆っこ米の安定流通・取扱量の拡大を図っています。

農業技術者会などによる技術改良や、生産部会を中心とした農家の生産努力と振興によって生産量を増やし、平成15年には作付面積62ha、収穫量279tとなり、たった京の豆っこ米の生産は、平成22年には118ha、531tまで拡大しました。

このような環境にやさしい有機質肥料を使用した豆っこ米の生産が評価され、平成21年に「ひっくり！エコ100選」に認定されたほか、「京都府環境にやさしい農業推進コンクール」において全国農業協同組合連合会京都府本部運営委員会長賞を受賞するなど、環境への取り組みが高い評価を受けています。

また、全国食味ランキングにおいて丹後産コシヒカリは平成19年から21年産まで3年連続で最高評価である「特A」を受賞しています。丹後地方の米のコンテストである「丹

後藤コシヒカリ良食味米共勵会において入賞の常連である豆っこ米は、全国でもトップクラスの評価を得ているおいしいお米であるといえます。

豆っこ米の生産第一人者

現在、与謝野町ではおよそ120戸の農家が豆っこ米の栽培に取り組んでいます。その一人・小谷安博さん(後野町)に話を聞きました。小谷さんは豆っこ米の実証実験が始まった当初から、およそ10年間、豆っこ米の生産に取り組んできた第一人者の一人です。

化學肥料から豆っこ肥料に変えた当初は土壤に豆っこ肥料が十分になじんでおらず、食味があまり良くなかったといいます。

豆っこ肥料の実証実験を行った農業技術者会から栽培方法の指導や技術提供を受けつつ、栽培方法を改良して、40haの作付から始まつた生産は、今では約4haと10年間で10倍になりました。

また、「丹後後輩コシヒカリ良食味米共勵会」において最優秀賞に輝くなど、すばらしい成績をあげています。

環境にやさしい農法を実施!

水稻栽培では、稻の苗を植える春の作業が一番忙しくなります。田植え前の準備として、さまざまな作業を行う必要があり、そのなかで環境にやさしい農法として実施している作業として「畦ぬり」と「代かき」があります。

畦ぬり作業は、田の土を、田の壁である畦に塗り付け、防水加工をする作業です。

畦ぬり作業が終われば、土を耕す田起こしなどの作業を行い、その後、田植え前に代かきを行います。代かきは、田に水を張り土を平らにならす作業で、多くの水が田から流出してしま



上／浅水代かき作業の様子
下／畦ぬりされた畦

いがちです。

水が流出するごとに、水管管理が困難になるばかりか、せっかく撒いた肥料成分も流失し、その効果も低下してしまいます。それだけでなく、養分を多く含む澆水は、野田川から岡崎海に流れ込み、水質悪化の原因となってしまいま

す。そのため与謝野町では、環境に配慮し、少ない水で代かきを行う「浅水代かき」を推進しています。浅水代かきは通常の代かきの3割ほどの水の量で行うので、水の流出を抑えることができます。

生産者の思い

小谷さんが農業を営む後野地域は、後野農地水組織といった地元農家の活動によって、京の豆っこ米の生産など自然循環農業がごくに盛んな地域と

なっていますが、ほかの地域にももっと取り組んでもらい、生産者が増えたほしいといい小谷さんは言います。それだけでなく、たどり農業をしていなくともまちの人々が「豆っこ米がうちの特産品なんだ」という意識をもちつてももらえるようにPRをしないといけない。町内ではめられることはないものが、町外ではめられることはない。だから町外へのPRも大事だが、町内にもっとPRしなければならないと指摘します。

小谷さんの指摘するとおり、まず町内的人が豆っこ米のよさを知り、豆っこ米をまちの特産品として認識してもらうことが必要です。そうして、豆っこ米をまちをあげて育てていくことで、ブランドとして確立していくことができるでしょう。

小谷さんも「そうなっていけばうれしく思う。のために皆さんにはもっと食べて知つてほしい」と思いを語ってくれました。



手植にかけて育てた豆っこ米もちょうど収穫の時期となつた小谷さんは期待します。

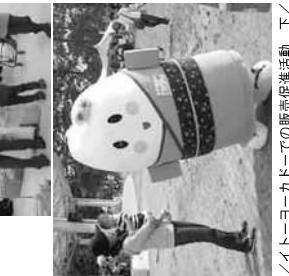


写真：小谷安博
昭和32年生まれ。54歳。京の豆っこ米生産者会員で後野農地水組織では会計を務め、自然循環農業と地元農業の振興と貢献。京の豆っこ米と大豆の生産に元請に立って取り組む。

どこで買える？

町内では、道の駅シルクのまちかや、ショッピングセンター「エーコーウィル」(株) 加悦ファーマーズライスなどで販売しています。ほかにも「大樹葉館」では豆っこ米を使用したお菓子を売っています。まだ食べたことのない人は、ぜひ豆っこ米のおいしさを実感してください。

また、町外でも平成20年からイトヨコカドーで販売を開始し、現在では年間90トンの売り上げがあります。豆っこ米が、JA京都、三慶(株)、京都祐喜(株)、丹後クリーンネットワークシステムズ(株) 加悦ファーマーズライス、リフレかやの里の6社いずれかを通して流通することを特定流通と呼んでいます。豆っこ米であることを示す「豆っこシリル」は、その特定流通のうち、農薬・化学肥料を5割



上／豆っこ米がモチーフの「まめっこちゃん」

イベントなどでPRしています。また、平成19年からは、豆っこ米の学校給食への利用が開始され、現在では、2幼稚園、9小学校、2中学校で提供され、子どもたちはふるさとのおいしいお米を食べています。

克服すべき課題

与謝野町で生まれ、与謝野町の特産品としての地位を確立してきた豆っこ米ですが、課題がないわけではありません。

日本でも有数のおいしいお米としての評価を得ている豆っこ米ですが、その知名度はまだまだです。そのよさをたくさんの人々にPRしていくなければなりません。また、まちの皆さんにもまち独自のおいしいお米として豆っこ米のことをより知つてもらい、まち全体で育てていかなければなりません。

豆っこ肥料については、ペレット(粒)で供給できていないことが課題となっています。現在は粉体の肥料として供給されていますが、ペレットの状態のほうが、散布する際に風の影響を受けにくいう利点があります。しかし、ペレットにするには時間がかかり、需要に製造が追いつかなくなってしまうため、ペレットでの供給は一部にとどまっています。また、豆っこ肥料を生産する際に燃料として多くの重油を必要としていることも挙げられます。

ます。より燃費のよいがイフーへの更新が予定されていますが、先月号で紹介した根園活力農法など、別の角度から対策も必要です。

そして、豆っこ米に限らず、米を生産する農家にとって深刻な問題となっているのが米の価格の低迷です。

さらなる振興を目指して

生活の基本である食は、常に安心・安全なものが求められており、近年、特にその気運が高まっています。

与謝野町では、現在取り組んでいる環境にやさしい農業をより発展させ、その先にある無農薬栽培の実現や「京の豆っこ米」というブランドの確立を目指しています。それにより、おいしいだけではなく、環境にやさしい安心・安全な米としての付加価値を高め、新たな販路・消費者を獲得し、米の価格が低迷するなかでも、農家所得の向上につなげるとともに、化学肥料の使用や農薬散布などをできるだけ減らし、岡崎海への環境負荷の低減などを推進して、住民にも環境にもやさしい農業を開拓し、地域全体の発展を目指します。

次回は、自然循環農業においてもうひとつ重要な作物である、大豆の生産を取り上げます。



上／京の豆っこ米認定シール 下／京の豆っこ米の様々な情報・品質管理によってフルオート化をを目指しています

町政懇談会 Q&A



6月20日から8月5日までの期間、町内24カ所の地域を対象に6回目となる平成23年度の「町政懇談会」を開催しました。

今年の懇談会では、「庁舎の統合」の話題を中心のご説明と、お集まりいただきました1,253人の皆さんから貴重なご意見をお聞きすることができました。

私たちのことを耳に聴き、きちんとした形で安心して答える環境を提供していただきたい。合併特例債を利用できる間に、加悦中学校の改築と庁舎の統合を実現したい。

A 岩瀬 認明・届出の数は、加悦地域振興課が26%、岩瀬地域振興課が29%、野田川の住民環境課が45%となっている。

地域振興課に直接相談できて助かっている。なくならない方法はない。

A 行政改革により職員数も減っている。原職員のレベルアシアを図り対応したいと思っている。

区政府長を無視してても加悦庁舎にされる考え方か。

A 採算する限界は、薦めをもつて皆さんとに聞かなければやせせていただいく。反対意見もあるが、それは理屈ではなく感情論ではないかと思っている。町全体を考えると、この判断に決断しならざるを得ない。庁舎の問題もあるが、ヨリヨリ施設は200億円の大事業であり、後世に負担が残らざりやうが形で

の議論を上げをしてやらなければならぬ。職員や経営難済費を削減して、やつと數字的に先に明かりが見えてきた今、これ以上の負担をかけるといふことは難しい。

A 野田川に総合庁舎をつくりじながら、岩瀬でも加悦でも理解してやられるのではないか。このままでは今後の町政に影響が出るしやがる。

A りじや、もおづくりを考えた場合、職員の館に23億円使うなら、小学校や保育所などにそのお金を使いたい。

A 今も大切だが将来も大切。やつ少し中心的な位置に新庁舎を建設した方が将来のためにはよろしく見える。今回の問題で、旧岩瀬町が野田川町から分かれたりしなにかじ心配している。

A 3町が共に苦労して実現した合併から5年がたつた今、庁舎問題だけで分かれたりするのは非常に悲しいこと。庁舎統合によって合併本来の姿になってしまったのがやがてない。庁舎がおおの中央になくて

も、公民館活動をはじめとする地域活動を妨げてしまうことがでさればもういきません。

A 総合庁舎は縮向化を防ぐ。しかし、合併の基本5項目の中に入っている庁舎問題についてはいろいろな課題がある。しかし生民権が縮そうする課題。やつはほく今のままで行く必要があるのでないか。

旧町カラーが出てこないと思うが、その辺のならしさをつくられるのか。

A 合併協議を始めた際、それぞれの町の思いも確かなあつた。しかし一番初めの約束が、新しい庁舎を建ててすに今ある庁舎を使っていろいろじうう基本的な合意の上に、岩瀬を本庁舎にしてその他のを分庁舎とすることが決まった。未来永劫この形ではない。町民の方には、現実の状況を詳しくしてねらいにくい説明し、理解していただく方法をとりたい。余計に説を作るのでほん心配はあるが、今だからこそ意識を一つにする必要があると考えている。

O 加悦地域

いわだら。

A 議会では合併から離脱した方がよかつたらしいつ発言も聞かれた。加悦谷の2町で岩瀬を入れずに合併した方がうまいのです。

A 1市4町での合併協議では、「岩瀬が地理的中心に位置しており本庁舎を置くにふさわしい」と当時の岩瀬町長は思っておられたが、3町での合併協議ではそういう言っていない。

そのことを離脱されてしまい、私の想いどおりがあるかもしない。合併協議のなかで岩瀬町長が「本庁舎が岩瀬に置かれないとからじして合併を離脱するつもりはない」旨の発言をされてるるりもあり、そろそろ馬鹿にならない。

A 総合庁舎の場所は町の中心である野田川わーくはる付近が最もよい。加悦中学校の改修にて億円かけるのであれば、そのお金で新庁舎を作り、空いた加悦庁舎を改修して加悦中学校として利用すれば。

A 住民の暮らしを優先するため、新しい庁舎の建設は控え、既存の庁舎、建物を有効利用するといふことを基本としている。おらの孫である子こ

○野田川地域

A 総合計画の中で庁舎検討委員会を立ち上げると聞いていたが、職員のローキンググループの検討の内で住民説明会をしたことを残念に思う。検討委員会を立ち上げ、町長として話し合い、もう一度検討すべきだと思うが。

A 検討委員会は重要なと認識しているが限られた人數の中での検討となる。それより、役場の持っているデータを活用し、町政懇談会で各町議をまわり、同じ情報を共有するなかで一人でも多くの意見を聞き検討したり。庁舎を統合した場合、経費削減等の効果があるのかかる人件費等を含めて試算はできているのか。

A 加悦庁舎に統合した場合は、庁舎の維持管理費が1年間で約1200万円削減できると試算している。職員の入件費等の不必要な費用については、シミュレーションでない。

A 加悦の保険やセンターがなくなるため、岩瀬の保険センターが中心になる。岩瀬庁舎は、どのようにしていくのが現実の皆さんに提案した。

A 町政懇談会終了後に住民投票をしたらどうか。住民投票は考えていない。

A 住民の合意投票を図って

A 加悦庁舎は右圖23市で選水したがひのむに考えているのか。

A 台風2号で倒木した件は、野田川改修が遅れたところが原因だ。この2件で改修が進んでおり、幾つかは言い切れながらが前のやうないいがだらじゆ思つ。

A 加悦に本庁舎が移転するには既成だが、岩瀬住民の反対により町が分裂するのではないか。住民投票を行つた方がよいのではないか。

A 与謝野町を持続していくために、庁舎問題に一定の結論を出す必要があるが、住民投票をして、かえつて意見が一分し、じりじりを残すりとなりかねないので、庁舎統合住民説明会を開催し、多くの町民の方に説明をしていただいた。一部で本庁が移転すれば町から離脱するような考え方をもだれているのは危しらじである。本庁が岩瀬でなければならない理由を、岩瀬地域の懇談会でお聞きをしたら。

C 庁舎統合の必要性が分かりにくい。庁舎統合には賛成であるし、本庁がどこにあってお隣様などじうの地域の





声もある。1年間で1,200円ほどの手取り料金で、では財政的に大きくならなければ、姫百合の必要性を教會するなど、もひとつ具体的な教義を提示しないと説得力が弱い。

A この資料は直線的な方針で、維持管理費を単純に出してしまっている。たしかに職員の仕事量と移動について職員がどのようにして頻度で行っているのかがどうも明確化できるものもある。行政を効率化し無駄な経費を抑制しその分住民のために選ぶ元手となることが務務である。大事なことは検討するためには、組織間でのつながりも大切である。

 野田三川へ→はなむけの会
明会で話を聞かせていました。
だとき、私としては最初のやうに
だと感つた。3回会社のところを
ら、なぜか税務課を活用しない
のか躊躇を持つつていた。

A 3町会合併の協議を始めた際、首長同士で話をし新たに庁舎は作らないこと、員全員が入れる庁舎は3町にいため3つの庁舎を使うこと、確認した。本庁舎の場所をを考えるととき、加悦の町長は災害があつた直接だったこともあつてか、加悦どんじはひじりとも書

れず、中心である駒田川町や、
横町に本庄櫻能をじのこじめた。
岩瀬はできれば本庄を来て来て来て来てほしくと言われ、駒田川
は半分が若狭化しているといふ
脇もべ、最終的に岩瀬を本庄にし、
それでその地域に庁舎を有するりじて舗装がスター
した。まだ、合併協議会のなかで委員が「仮に岩瀬が本庄にらなくておる町合併やら難いわ」といひながら「やめよ」といひしだされださうが、岩瀬の町長なりおやべじはつおり言われるにいじが本庄が来なきゃ岩瀬は合併しないといつて町長の口の脣にじやキャップがあるのとならないが、じうじつだ形で岩瀬の方々に伝わったかは分からぬが、首長会や合併協議会の新华いのなかではそういう決まりつけられた。Q 旧岩瀬町民の方々をあての反対運動が起り、住民投票の動きが出てくる可能性を耳にするがどうか。
A 住民投票を行うには住民投票条例を定める必要がある。町を1分する住民投票選舉たいじ考えていく。
Q 総合計画に、庁舎建設に向いた検討を進めるとして、「検討委員会の立ち上げ」
A

たわてている

A 総合計画にうたつてから、総務委員会では、各市町の代表者等の皆さんに委員会を世説になる形になるが、あるまじき住民の皆さんに対して、直接説明をして、そのなかで議論くだらなくがむしゃらに争論した。直接説明の意見のキャラクチホールのなかで、総合の方向性を決めてもらえた。眞直が提案した内容を回収して受け止め、町民の皆さんと話し合った理解いただきながら、
A 庁舎統合した場合、表題野田川に駅口が必要になりその経費が必要になる。生の方の利便性を考える以上にもう一方から聞く。
A 庁舎がなくなる岩槻市田川地域には、生民の利用が多くて難解明の実行金の納入をしていただけたら話を説明し、それぞれ正確真面目1名で対応するとしてただし場所はまだ決めてない。岩槻では既設館なども考えらる。
A 合併特例債や、回り掛ければ総局私たちの認めた國民の借金であり、特例債だといふとて目一杯掛かりつけであるだけ掛ねばこじめらる。

お願いしたい

A 町としても合併特例債を
であるだけではなく、いわ
に著えている。借りられる限度
が決まっており、年齢制限の場
合は1~1億円まで借りられる
ことができる計算になるが、そ
れを満額借りるのはなく、現
在のところはだいたいその3割
程度借りている。あと田舎町
が5年あるが、有利だからこじ
どん借りるのでではなく、必要な
事業にだけ来ていくべき。

 加盟保険センターを事務所に利用するのではなくて、いるが、保険センターがなくなくなつた場合、市議会町についての保健センターはどうなるのか。

A 現在の保健センターは「元気館」と「岩瀬保健センター」があるので「元気館」が保健センターでなくなれば、「岩瀬保健センター」がメインとなる。保健センターで利用する器具の保管場所として野川田北庁舎の利用を考えている。保健センターが1ヵ所になるにいりで、これからは各地区公民館を利用した保健事業を行う。工夫した事業展開も検討したい。



じ腰。ひ。か。生民管轄地を
えらし地頭官にゆるの騎田三
本行省があるのが騎賤たゞ腰。
加賀守護の生民にひつてせ新井
すぐれりひだり腰。が、直生
て善えればやせりゆるの騎田三
上ねるのを難物。こじゆせな
が。

A 合併して10年間で使われた
合併特例債は111億円
そこから庁舎に28億円使つてし
ると他の課題への対応が制限さ
れてしまう。確かにいまの中心
に本庁があるのがベストかも知
れないが、平成14年に建設され
た新しい加茂原庁舎を使わな
どね本部だと正しいのかどうか
ともある。庁舎に費用をかけ
いが、他の課題に対応するには
の方が生民のためになると言葉
てはいる。

○岩滝地域

A ■業界の内情は理解しても、ただ、約束された機能を販賣会で立ち上げるぐあてにはない。機能は腹にねえ。プロモーションの問題である。

まおがオヤローするようなもの
はなつてしない。検討委員会
立ち上げは、今すぐには管轄を
ないが、検討はやめ止めをせ
いただく。

古事記の書物は、
本邦最初の書物と
考へられてゐる。其の
中で最も古く最も有名
なのが「古事記」である。
古事記は、日本古事記
と、日本書紀の二つある。
古事記は、日本古事記
の略称である。日本古事記
は、日本古事記の略称である。
日本古事記は、日本古事記
の略称である。

A 本来、旧町のいじみに難するべからずが、今中もあてこらじく販賣しないで居ない。それぞれの町が合併するためには努力をした。岩瀬だけ、駿河田だけ、加茂だけというのではない。それそれが民の意願をばねず、アンケートを取つたり、直接お詫びをせしめたりするなかで、一定の方向性を決めて合併した。本會が来るからじく理由などは、合併したわけではない。山田さんからお話をうかがつてきました。

町なので、前途もあきらめない。新しい歴史を築いていく
力で乗り越えなければならぬ高いハードルだと思つてゐる。

A 広く社会から無くなってしまうのが、今の海浜浴場の本題。自治海浜浴場の体制が変わらなければ、それが今後も続けることになるのが大抵を想像する。海浜浴場は、いわゆる「公的施設」に属するところが多く、運営側はそこへ勝手な手を加えられない。そのため、運営側は、運営側の立場で、各地域に適した設備を配置する。「地元などにつくっては、標準規格がおもねりから一本化を進めてこれない。今ままで分かれてしまっていたり、1本の規格がついたりした命が限ればほんの少しでもおもねりたる体制や施設の配置を見直し、域の能力と体制を直面する必要がある。

A 広島市議会は市民の意見を聞いていたが、これがどうして来ない。財政的な問題や職員の人事にかかる問題でなく、町議員のスリ化などが原因か思えながらたどり馬鹿が、やせなぐ、活動にかかる無能さが原因ではないかといふのが、町議員の直接、町民対応に対する不満である。

 合併前から数年後には、
 厅舎問題を出そうという
 意図があつたのでは。

A 合併審議会の小委員会で検討が出てきたものがやや複雑で、それがまたなぜか。その時点ではこの合併案のよりを本庄にすることになり不得て、岩槻町が手を挙げられた。それと同時に町が若狭の腰振をしながら思つておる条件のなかで沼津もいた

お世話になります。庄重な昇進式にて、新規の
反乱党が立派なが、舞妓の
服装を着用してござるが、若狭
の舞妓衣装をあつておらずお水にせ
なうや。庄重な昇進式の舞妓が
防寒装束に身に付けておられません。
この通りで何を隠さずお

も不馬鹿でない。加藤の
市長のこのだけを奢れば地震
には対応できると思う。防波堤等
の問題は岩瀬だけでも問題が起
ることのではなくら。今、阿瀬川一
サイドパークでも高い木を植え
るが、最悪が悪くなるとの声も
ある。

A 職員の効率の中で厅舎を考えるのではなく、町全体の効率を考えて検討して欲しい。職員の効率だけを考えただけがちだが、生産の質



かぶにはそのもうじで耳つている
じうう感じがする。ただ、現在
は議題決定をする場合でも非常に
に時間がかかつており、統合によ
つて住民の皆さんに返す時間
がスピードナーになることが効
果、決して職員が業をするため
に提案しているのではない。

Q 1市4町の合併協議を離
脱した感覚の中で、与論
野町から岩瀬地域を分離させて
はしつか。加佐と野田川は一緒
になつて岩瀬は岩瀬だけで行く
といふが現状では豈ましい。相模
谷と岩瀬の人はそりがあわねない
のが現実。

A いろいろあつたが川上か
ら川下まで産業や地理的
にもつながつたまちである。合
併の時も、それぞれのおおから
いろんな意見があつたが、庁舎
については、今ある庁舎を活用
するなかで手を上げた岩瀬へ
本庁が行つたという経緯もある。
それそれが若狭の選択をし
たなかで、ひとつひとのおおに
なつてスタートしてくる。一つの
おおからして、離ら合つて一体
感を醸成していくのも大切と思
う。他のおおからいろんな思い
があつだらうといつても理解いた
だあだら。

Q 合併協定書の仕事について
思つてはいるのか。求めた
長本人が取つてしまつては
岩瀬の住民にしてはペトロ師に
かかつたらうなもの。まだ岩
瀬町の時代は住民サービスが良
いながら、何でこんな態度みた
いな町になるような合併をした
のかと疑つてはいる。半分おきら
めおあつて合併した人やおおの
に、この合併協定書を守られ
ず岩瀬の住民は離れたといつ
てはいる。

A 合併協定の基本5項目の
うちとして庁舎位置が定
められており重要なものと認識
している。住民ニーズと行政の
効率化、社会情勢の進展、職員
数の減少などのなかで将来に
わたつて縮小変更してはならな
いからおもつてはなく、必要な
改革は着実から取り組んでいく
もの。このような重要なことば
町長個人が決められるものでは
ない。議会は3分の2以上の議
決も必要となり多くの面倒の方
の合意が無ければ、進めるとい
はじわざる。首やどん岩瀬協成
をしながら進めて行きたい。

Q 合併特例債で7割超つて
くるとのじたが、今回の大義の説書があるが
あるが

100%償還金ではないのか。
A 合併特例債は事業費の
95%を借りられ、元利均
等額還付金額に対して70%が支
付額に参入される。建設だから
といって幅度が無むにされるこ
とはないと考えてはいる。法律が
変わらないにかぎり変更されない。

Q 水道料金も上手つたし
、合併しなければつかつた
庁舎を統合した場合の良い点
悪い点を示してほしい。

A 庁舎を統合してもしないく
ある。水道料金は合併したから
上がるつた訳ではない。合併した
から搞んだらう声をよく聞く
が、合併したから合併特例債を
いろんな地域、施設に活かして
いる。合併特例債は岩瀬がいち
ばん多く利用している。岩瀬だけ
が、合併したから合併特例債を
岩瀬地域に活用するべき。
C 庁舎がなくなれば職員が
減る。職員が減れば災害
の対応も遅くなる。防災をしつ
かり整えてから庁舎移転を考え
るべき。

A 住民の増や伸びの結果
り組まなければならぬ10項目
を掲げた。その1つに役場の
機能改革と合わせて庁舎統合を
やつたらいいと述べだが、この
の中身について取材を受けた。
加佐庁舎に統合することは決
まつたものではなく、これから
議論していかないと言つたのが、
加佐庁舎になるであろうと新聞
に載せられ、すぐに抗議した。
眞理としては年間のうちに総
合庁舎に向けて取り組みたこと
いうことが言いつたがつた。

C 庁舎がなくなれば職員が
減る。職員が減れば災害
の対応も遅くなる。防災をしつ
かり整えてから庁舎移転を考え
るべき。

A もちろん、今計画がない
わけではない。政策も考
えてる。今日明日の終盤では
なりのとそのなかで今の計画を
見直し、人員配置等規定を超
える対応も根幹に入れて改訂計画
をきつちり立ててもらおう。
C 分厅舎ではせせせせの
か。統合すれば単純に合
理化ができると思うが、やつじ
知恵を出せないのか。分厅舎で
いかに合理的な方法が図れるか

説明されたのか。

A 今の現状で分厅舎方式を
許す状況はない。工夫が
必要だと想つが一つの庁舎に大
元はおもひ、他の担当を考えて
いよいよが必ずしも合併してくる。
Q 庁舎統合への反対意見は
後ろ向きの意見ではない。
3町が一緒になり、地域の特色
を生かし、町民が一体化するよ
うな面つくりをしていくべきな
のに、庁舎統合はその考えに反
する動きだ。

A 意見を頂き、それぞれの
地域の歴史を歩みといつ
ものを感じていただ以上に感じ、
また、地域の趣を感じた。庁
舎統合は、町が一つになるなか
でいつもは乗り越えてなくてはな
らぬこと。ひとつひとおもひ
ひとおもひひとつひとおもひ、そり
からそれそれ地域の動向をお詫
びになつていくことなのではない
いかし頃。

Q 庁舎統合の公職世人といつ
て職員削減が挙げられて
いるが、統合すればさらに削減で
きるのか。1Jの職員人数は庁舎
統合を導入に入れての削減か。

A 人、庁舎内職員163人
じゅるのとおはり後の日暮教育。合

併前から8人集らねからじ
やつてじゆかじじと詰めてきた
が、平成28年に難波の平定。退
職者の3分の1を採用していく
方法をやつて。

Q 職員の間に賃金をつき込
みや、町民に賃金を還元す
ることにならざる職員が必要
になっている。町役場を使う
のに改修費が必要といつ矛盾が
生じるが、その辺りはいつか。

A 新しい庁舎を建てると
なると23億円かかるの
で、お金をかけず今ある庁舎
を使おうじう考え。改修費も
3億8千500万円かかる見込み
だが、まだ工夫して減らせる方
法はあると思う。23億円を庁舎
にやさむよだ。町民の運営する
こと、今しておかなくてはなら
ならないじう改修や施設を使ら
いじ思つてくる。

Q 岩瀬町前にてはなん
か一棟にやつていてい
るのに、なぜ今やの役場を立て
るのか。与論町役場は一つの町に
なつたのだから、そりひきの
なごみの町役場を立て、町民が
困らないうちに政治をしてくれ
るといつて町役場を置いている。

に総合的な新築で標準した。公
平日で住民の皆さんに説明を
かけないような方法を考えて提
案した。職員も住民のための職
員という意識を持つていて、
町長は自ら意見する。議論しない
で決めるのではなくて、しつ
かり町職員や町民の皆さんへの意
見など耳を傾けて、今後も具指
えていただきたい感じている。

Q 町長は地域振興課を廃止
すると言われた。諸説明
の発行や公金の取り扱いだけで
安心していただけじうのは弱
いと思う。たとえば、不在者取
扱や死し屋などはいつするのか。
にればできるが、これができない
くなるじうのを示すためにじ
不安は拭えない。

A 岩瀬振興課は当初8
名が現在4名。職員数が
減るなか、原職も回りきれない
状況。それが3つに分かれてい
るので、機の複数で物事を進め
るといつてはいけなくなつていて
る。今まで本庁機能をすべてカ
バーしてらうといふ言葉が、ほ
んとうでわざわざお業種を思つ
る。財政が厳しくなり、予算
を縮減しなければならな
い。そこで、ついで総合庁舎に

して、総合職員をし、職員の效
率化を図る。今後じう整理等の
問題にわざ金がかかる。文部省
や生産に岩瀬山とにじた際の
なかで、住民は自助・共助・商
助・公助でやむにつけられない
いじ思つ。しかしこれは、今
後機関委員会での合意が得られ
るべきてあつて、今の実態では
無理があると感じる。その上で
住民に説明がされれば岩瀬だけ
でなく、野田川・加佐の方も納
得されると嬉しい。

A 今回の町政懇談会で、お
ちうりにじつて、行政
の効率化と町民の参画による町
政をじう運営するかにつけての議
論が深められたと想つ。今回の
提案が私自身もじつてお必要な
じう思つてはいるが、今後
も、住民の同意が得られるよう
努力していく。

Q 町長は「おおきいの主
人公は住民であり住民が
運ばせねばならぬ運」。おおきいの
力とお知恵で活躍のおおきい
を創造せよもつめり」と言つて
おられたが、その念願が無限し
てはいる。合併のいわばはいとおに
人が集まらなかつたが、今回の
庁舎問題ではいわばはいとおが真
剣になつて大変多く集まつていて





28

A 1人から10人の意見が詰めだらけの風景で町政懇談会を開催してしまった。合併のことを含む意見の人達が明らかにならなかったが、野田三丁目では7区を10回ほど回った。そうしたなかで議論をした上での結果を合併懇談会でも伝えました。直接皆さんとの意見を聞く大事とは身にしみてわかるところ。誰もが意見を言おうとしたが、その度に意見を書かれていた。そこで意見を書くだけではなく、いろいろな意見を書かれた方がいい。そういうふうな意見を書かれた方がいい。その度に意見を書くだけではなく、いろいろな意見を書かれた方がいい。その度に意見を書くだけではなく、いろいろな意見を書かれた方がいい。

C 町長は最終的に懇談会で決めていただくと言つたが、誰が決めて明確である。岩瀬町民の方には多く意見がござつた重要な問題を懇談会で様々に決めてほしい。町長はそういうふうに分かりました上でやつているのか。

A 広告庁舎は大変重要なことから、地方自治法で議会の三分の二以上の賛成が必要となつてゐる。本日の発表には多くの方の同意、まだ、議会の

多数の幹部らおじやあおひれるところが多かったが、はじめから決めていた意見を含む懇談会の意図を理解した旨の方だと想つ。議員は市議会議員全体を考えてそれそれで判断される。

C 本庁舎建設はあなたがするべきではない。次の町長がするべきだ。次く「お金は使わなければやめておれ」と。今度は3市長を一つにされた方がいい。が、市議会にされたのではなく、住民からされた方が意見が出ているのがおかしいのか。

A 私自身はこの4年間にする必要があると思つて訴えてきたつもりで、それをやられていただくのが私の務めであり、責任だと想つ。理解しながらのならぬ思い、提案させていただいている。

C 加悦庁舎のバスの行き来は頻繁にあるのか。高齢者や歩行者など、交通手段のない人の安全。

A 首都への直通で夜間は来てただくことがないが、福井駅前はJRでカバーしていい必要がある。また、多くの町民の皆さんが窓口に来られる用事は、証明の発行や税金の納入である。このような業務の窓口に

ひじに付けて、握手を握りながら議論したり、議員が由に付けておりました。対応について、少しあつ放棄していくのがね。

C 今の庁舎が方式で、町民からどれだけの不満があつたのか。議員の報告で一つの庁舎にされたのではなく、住民からされた方が意見が出ているのがおかしいのか。

A 住民の皆さんは直接に持続可能なまちをつくるためには、この10年間で基礎を作る必要があります。一つの場所で、一緒にになり、議員を省き、限られた財源でやつていただき。

C 岩瀬庁舎が本庁舎として機能するように、野田川、坂井地域の方にお尋ねしていただきたい。これが議論の一つで、わざわざおこなうと頑張るところは、住民の、とりわけ高齢者の方の合意はやはり議会に提案してほしい。

A 当然、多くの皆さんの合意や理解がないと進まらない。しかしわが町会の多数の賛成を得ることが大事であり、提案の時期や方法は十分考えな

ければならないと思ってます。大勢の皆さんが生の声を聞いて、方向付けをしてからやがて話しはじめるのと、1つのだけ同じして今回、議論した。合併したじわる、合併特例債が有利に使えるからに合併しちゃうる各町の風もあつたので、そんであるなら今後の議論が、よく練習して行うべきだと思つ。皆さんへの意見を聞いたので、それらにつけては今後どうしてくつかみかかりやねんね考えていく。

C センターハウスから5年かけて旧町の壁が少しづつ崩しながら、そこには必ず新しい形で現れていく。しかもそれは次に範囲が広がっていくのである行政改革大綱に基づいた議論である。この庁舎建設については議論につながりました。岩瀬町長は決してこのままではあるまいが、ある段階では住民の皆さんは若干の痛みを感じてやらなければならぬ部分も田舎へあると想つてゐる。國の言ひなりではなく、岩瀬町長として物事を進めていくところの姿勢は實にいたしかつて、今後こうしてくれば十分考えてもらいたい。

加悦庁舎を総合庁舎にすることについて、5月28日、野田川わくはるで説明会を、6月20日から8月5日まで町内24カ所で町政懇談会を開催しました。多くの町民の方々に参加いただきました。様々な意見をいただくことがありました。皆様に厚くお礼を申します。

今回の提案の基本的趣旨は①町じつて責任を持つ行政を進めていくために庁舎を統合し、更に行政機能を高め、効率的な行政運営を進めること。②町民の安心・安全を守るために、権限命令系統の一本化により、一層の省庁体制の強化を図ること。③合併による施設コストを最小限に抑え、厳しく財政事情から財政的リスクを最小限に抑えて施設整備等を進めること。住民の安全と福祉の向上から責任をきちんと果たすとともに、できる限りリスクで効率的な運営を行い、それで生み出された財源や施設は住民の皆様の活動の支援に振り向けること。今回この提案の最大の眼目であることをぜひ理解いただかれてください。

これまで述べてきましたが、私の意見を述べさせていただきます。

④本庁舎の位置は、基本協定5項目の一つ

として確認された。それを發えることはどうか。

■本庁舎の位置は基本協定の重要な一つであると認識しております。同時に議員の減少や今後の行政状況を踏まえ、将来に向けた持続あるまちづくりの体制を整えていくには、庁舎や組織のあり方を絶対に変更してはならないからなのです。なく、必要な改革は町民とともに町民の合意を得て普段から取り組んで行かなければならぬとしています。従つて皆様ともう一度議論を進む合意形成の状況をよく見極めながら、慎重に判断してもらえております。

■今後の行なはるべきものか

■住民の多くの皆様の合意なしに進めるのはありません。町じつたしましては今回の提案は、今後のまちづくりの観点でどうしておかなければならない議論と判断にたつて提案させていただけておりませんが、同時に町民の皆様の意思を尊重し、合意なしに町政の推進はならないからこそ大事な点であると想つております。本庁舎の変更は一般的の議論と異なり、議会の三分の二以上の賛成を必要としますので、多くの町民の方々の理解と合意が不可欠です。

■本庁がなくなつて支所がなくなれば住民サービスが低下するのではないか。仮に

が遠くなり不便になるのでしょうか。

■窓口業務の設置や、住民サービスを確保するための皆様からのご提議などはできる限り取り入れただく趣にあります。

……………

今回の説明会、町政懇談会の中で、今後の与謝町のまちづくりのありかた、行政の効率化・住民参加型のまちづくりをどう進めていくか等いろいろな議論がなされ、深められたことはたいてい多くの意見であり、重要なことです。こうした形で多くの方があわいりて議論している議論をしていただけたらうれしい議論だと思います。

多くの町民の皆様から検討委員会の設置を始めその他様々な貴重な意見をいただきましたので、今後これらの意見を再度十分時間をかけて検討するといふじめ、議会での議論を踏まえた上で、いかに進めて行くか、お時間をおいただく中で検討してもらいたいと考えておきます。

現状ではまだまだ住民の合意が得られたとは思えておりませんので、本庁舎の位置を変更する条例改正案は12月議会には提出いたします。

今後じゅう町民の皆様の理解をお願いいたしませんが、引き続き意見をお寄せいただかねばうが願い申し上げます。

平成23年8月31日

与謝町長 太田 貴美

高校生の生の声を 聞きました

加悦谷高校生徒と町長との対話授業

7月20日、恒例となった「加悦谷高校生徒と町長との対話授業」を開催しました。

対話授業に参加した3年生の15人は、日ごろ抱いている疑問や意見、また高校生ならではの目線で見た与謝野町の課題など、たくさん、そして率直な声を聞かせてくれました。



サイクリングロードにたくさんのがみが自立つ。何とかならないか。
ごみ箱を置くと、なんでも捨てる人がいて困っている。モラルの問題。高校生の皆さんに以前ごみ拾いをしてくれたが、そういう活動を通じて住民に訴えて行つてほしい。またC.A.T.Vで高校生の皆さんのお活動や思いを番組として放送してはどうか。その一つに「ポイ捨て防止コマーシャル」をぜひ考えてほしい。他にも文化祭やクラブ活動など高校生の活動を住民

の方に知らせることができ。それだけではなく、特派員とい形でまちの中へ入つてまちを紹介するといったことなど、高校生ならではの視点からの番組作りをしてみてほしい。最終的には企画から編集まで、高校生の手で作った番組が実現できればよいと考えている。

勉強に図書館を利用しているが、18時に開館してしまう。20時くらいまで開けてほしい。図書館を利用しやすいよう工夫が必要だと思う。課題

ができる。それだけではなく、特派員とい形でまちの中へ入つてまちを紹介するといったことなど、高校生ならではの視点からの番組作りをしてみてほしい。最終的には企画から編集まで、高校生の手で作った番組が実現できればよいと考えている。

勉強に図書館を利用しているが、18時に開館してしまう。20時くらいまで開けてほしい。図書館を利用しやすいよう工夫が必要だと思う。課題

にしていきたい。

厅舎を統合するなど、遠くまで、高校生の手で作った番組が実現できればよいと考えている。

勉強に図書館を利用しているが、18時に開館してしまう。20時くらいまで開けてほしい。図書館を利用しやすいよう工夫が必要だと思う。課題

としている。私たちより下の世代が機械の存在を知らないようになるのはさみしいので、機械より体験など苦い人が興味を持てるようなことができたらよいと思う。

ちりめん歴史館、ちりめんの郷土資料館では手機の体験ができる。体験がしたいということであれば、商工課光講で、なにかできると思うので、そういった要望は積極的に後場に言つてもらいたい。また、農業も甚幹産業の一つとして重要で、水田も多く、おいしい米が取れる地域。京の豆っこ米という与謝野町独自の米もある。また、丹波後産のコシヒカリは日本の良食味米コンクールで最高評価である特Aを3年連続で受賞している。環境にやさしく、おいしい米なので皆さんもいっぱい食べてP.Rもしてほしい。



でもうひとことを検討している。
私たちができる少子化対策はないか。
与謝野町で就職して結婚で離れて暮らしても、まちを想う気持ちがまちをよくすると思う。いつでも故郷のことを考える気持ちを持つてほしい。そして、できるなら故郷へ帰ってくるんだという気持ちを持ってもらいたい。地元に帰ってき

て結婚してもらえば、いちばんうれしい。昔はまちに機械の音が聞こえたが、今はなくなっている。私たちより下の世代が機械の存在を知らないようになるのはさみしいので、機械より体験など苦い人が興味を持てるようなことができたらよいと思う。

ちりめん歴史館、ちりめんの郷土資料館では手機の体験ができる。体験がしたいということであれば、商工課光講で、なにかできると思うので、そう

の地域版興課でも開発していただけます。また、町木一ムページにも掲載していますのでご覧ください。増刷を希望される場合は、1ページ10円でコピーをいたしますので、各地域振興課でご利用ください。なお、今回紹介した町政懇談会と加悦谷高校生対話授業のQ&A、また、各区分別で回答など、すべての内容を「町政懇談会質疑応答集」として取りまとめました。質疑応答集は各地区に3部配布しているほか、各厅舎

○平成23年度 町政懇談会地区別参加人数 総参加者数1,253人(男1,040、女213)

地区	開催日	人数	地区	開催日	人数	地区	開催日	人数
三河内区	6月20日	37人	加悦奥区	7月5日	30人	香河区	7月22日	18人
岩屋区	6月21日	37人	加悦区	7月6日	47人	石田区	7月25日	68人
畿地区	6月22日	53人	後野区	7月8日	30人	弓木区	7月27日	99人
四辻区	6月24日	37人	与謝区	7月11日	29人	立町区	7月28日	75人
上山田区	6月27日	36人	漣区	7月12日	27人	浜町区	7月29日	110人
下山田区	6月29日	40人	温江区	7月19日	49人	敷後区	8月1日	67人
石川区	6月30日	39人	明石区	7月20日	37人	東町区	8月3日	113人
算所区	7月4日	27人	金屋区	7月21日	31人	男山区	8月5日	117人

町政懇談会のすべての内容は各厅舎、ホームページで閲覧できます

24会場でお聞きせいたいたいご意見ご質問と応答、また、会場での質問にお答えできなかつたものの回答や、ご記入いただいたアンケートへの回答など、すべての内容を「町政懇談会質疑応答集」として取りまとめました。質疑応答集は各地区に3部配布しているほか、各厅舎